

## 牧場クラブ創立三十周年記念に寄せて

企画委員 下谷 栄 治

カワヨグリーン牧場「牧場クラブ創立三十周年」を心からお祝い申し上げます。また、牧場創業者の川口彰五郎様・とく様ご夫妻は元より総ての関係者のご尽力に心から敬意を表したいと存じます。

先日、三十周年を記念して青森中央学院大学中村信吾学長（農学博士）による講演が行われました。演題は「食事・食餌・食自」で、日本の食生活に係る問題点を鋭くご指摘され、その上で我々は何をすべきかについて貴重なご指導を戴いたところで御座います。その後川口オーナーにお会いした際、「今こそ日本は食料の問題を真剣に考え直し、農政を抜本的に改める必要があると考える。此の思いを冊子にして世の中に警鐘を鳴らしたい。」と言う主旨のお話をされてきました。開牧以来五十有余年少しもぶれずに信念を貫いて来られた方のお話は極めて重く感じた次第です。

政治家も、マスコミも、評論家も建前論や大衆に迎合することばかりを語り、真実は何処に在るのかを意図的に語らずにいるのではないかと勘ぐりたくありません。我々には子孫に対して、在るべき日本人の「食」に一定の合意点を探る努力を怠ってはならない使命があることは明々白々です。

一、食の安全とは何か。然らば何が何でも完全無農薬である

必要があるのか。それならばそれをどう担保にするか。そのためのコストを誰が負担するのか。

一、旬を無視して儲かるものを通年生産し、欲望のままに消費して良いのか。その為には温室等で化石燃料を燃焼して良いのか。何処までそれは許されるのか。

一、欲しいものを経済理論で海外から輸入し続けて良いのか。日本人の必要カロリーと栄養素を補完する為に最低限必要な食料の種類と量はいくらかのか。

一、国土の保全、自然体系に於ける漁業と林業の密接な関係を真剣に受け止めているのであろうか。

一、学校給食で「給食費を払っているのに何故子供に『ご馳走様』を言わせるのか」と学校にクレームを付けるバカ親が現実存在する状況にどう対応するのか。

一、食べ物と公共の放送時間を無駄遣いするテレビ番組や、売上げ至上の雑誌に乗せられて食べ歩き、その果てに残飯を大量生産する消費活動はどうするのか。挙げればきりありません。これらに的確に答えを出さなければ何の解決も図られません。

我が牧場クラブでは様々な活動が行われて居ます。その中に多くの答えがあるように思います。牧場の外に向けて発信していく地道な活動が改めて評価されることを願います。